

令和7年度

青少年健全育成地区委員会等 推進モデル事例集



東京都





はじめに

次代を担う青少年が心身ともに健やかに成長するためには、家庭や学校だけでなく、地域社会の役割も重要です。地域の方々とのふれあいや体験の中で、青少年は多様な価値観に触れ、社会性を身につけていきます。

本事例集では、青少年健全育成地区委員会等が主体となって、青少年の健やかな成長を地域ぐるみで支援する取組を「青少年健全育成地区委員会等推進モデル」として紹介しています。また、より多くの取組を知っていただくことを目的に、モデル事例に加え、その他の取組事例も掲載しました。

ご紹介した取組事例を参考に、青少年健全育成に関する活動の活性化や広がりにつなげていただけると幸いです。



目次

■ モデル事例等の紹介

モデル事例 1 足立区 青少年対策第七地区委員会

提灯行列 ～提灯を持ちながら、夕暮れ時の関原通りを歩きませんか～ …… 1

その他の取組事例 1

野外活動学習会 ～筑波海軍航空隊記念館と栗拾い…… 5

その他の取組事例 2

第 37 回第七地区町会連合大運動会 …… 7

モデル事例 2 江戸川区 青少年育成小岩中部地区委員会

親子野外映画会 …… 9

モデル事例 3 江戸川区 青少年育成瑞江地区委員会

『近所』から『近助』へ ～中学生を対象とした総合防災競技大会プロジェクト～ …… 13

■ 青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例一覧 …… 21

■ 地区委員会等推進モデル事業について …… 24

提灯行列

～提灯を持ちながら、夕暮れの関原通りを歩きませんか～

地区委員会の概要

足立区の地区委員会は 25 の地域で、町会・自治会長や町会・自治会役員、民生・児童委員、主任児童委員、保護司、青少年委員、スポーツ推進委員、小中学校 P T A 会長、小中学校校長などにより組織され、地域の実情に即して青少年の健全育成や非行防止に取り組んでいます。

青少年対策第七地区委員会がある足立区本木・関原地域は、昔ながらの人情味が溢れる下町文化が根付いており、人と人とのつながりが非常に強く、第七地区町会連合大運動会や野外活動学習会、善行青少年顕彰式などの事業を積極的に行っています。

▶事業開始の概要

提灯行列は今から 60 ～ 70 年前に、お亡くなりになった地域の日雇い労働者の無縁仏を関原不動尊に弔うために始まったと言われていています。その後、地域の母の会による主催でお盆の時期にご先祖様を供養するため、子どもたちが提灯を持って地域を練り歩くかたちで行われるようになり、当時の子どもたちにとって夏の思い出に残る行事として定着しました。しかし、残念ながら提灯行列を担う方々が少なくなり平成 28 年にこの行事が一度途絶えてしまいました。

この地域にとって大切な行事を復活させようと、当委員会のこれまでの青少年健全育成のノウハウを活かし、また、理事や町会の青少年部長と共に、ルートや交通整理、役割分担、協力団体への依頼、周知などについて数多くの議論、検討を重ねた結果、当委員会主催、第七地区町会連合会(本木・関原地域の 8 町会)、第七地区少年団体協議会の共催で再開するに至りました。

実施日：令和 6 年 7 月 13 日（土曜日）

会場：足立区立関原小学校（足立区関原三丁目 38-3）を出発、関原通り・関原不動尊を
経由して関原の森（足立区関原一丁目 21-9）まで

▶事業の周知について

提灯行列の開催については、開催約 1 か月前より本木・関原地域（第七地区）の町会掲示板や回覧板、区ホームページで周知し、また、出発場所の関原小学校にもポスターを掲示してもらいました。

▶当日の実施の様子

当日の午後 5 時、関原小学校に当委員会のスタッフやご協力いただく団体の方々が集まり、参加する子どもや保護者への会場内誘導、提灯の手渡し、来賓の方々の受付などを行いました。以前は提灯に火を灯していましたが、安全上の配慮から提灯の中には光るおもちゃの指輪を入れて

歩いてもらうこととしました。保護司会の方々には横断幕を用意してもらい、青少年の健全育成や非行防止のPRをしてもらいました。

集合時間の午後5時30分が近づくと、関原小学校には続々と子どもや保護者が集まってきて、会場内で提灯を受け取った子どもたちはうれしそうな表情を見せていました。準備の最中や午後6時からの開会式直後は小雨模様で、提灯行列をしている間に雨が強くないかと気を揉みましたが、幸いにも出発間際には雨が止みました。

開会式では、第七地区町会連合会会長、西新井警察署長及び関原小学校校長に参加者に対してごあいさつをいただきました。また、当委員会会長からも「今日からお盆ですので、亡くなった人たちに感謝の気持ちを込めて提灯行列をしましょう」とあいさつがあり、地区委員会のスタッフからは子どもたちに向けて自動車に注意して歩くこと、水分補給をしっかりとすることなどの説明がありました。合わせて「お盆の提灯よいよさっさ、提灯行列よいよさっさ」と提灯行列の掛け声の練習を行い、子どもたちからは元気な声がかえってきました。

開会式の終了後には校庭を埋め尽くさんばかりの参加者約650人が集まり、午後6時30分に同小学校を出発しました。ルートを車両通行止めにするにはできず、自動車の往来が頻繁にある中で大勢の参加者を誘導することが心配されました。そのため、行列は1グループを約100名として、それぞれのグループで各町会の青少年部長が列の誘導と掛け声を行い、列の中団・後方には当委員会のスタッフが加わり、ルート上の8か所にも警察官の他、消防団や町会の交通部の方々を配置して子どもたちが安全に歩けるよう工夫、配慮しました。



スタート地点の関原小学校を出発する参加者

大勢の子どもや大人が参加してくれたため、ルートは提灯が並ぶ長蛇の列になりました。子どもたちは関原不動尊や関原八幡神社、商店街など昔の街並みを感じることができる関原通りを地域の方々に見守られゆっくりと歩きました。道すがら、大人の掛け声に呼応して「お盆の提灯よいよさっさ、提灯行列よいよさっさ」と提灯を持って友達と一緒に大きな声を出す場面や、小さいお子さんと保護者が手をつなぎ、提灯を見つめながら楽しそうに歩く微笑ましい光景をいたるところで見ることができました。



提灯を持ちながら関原不動尊前を歩く子どもたちの列



関原通りを歩く参加者

ゴール地点の関原の森では町会や少年団体協議会、民生委員の方々が参加賞の準備や配付、列整理を行いました。広場に多くの子どもたちが到着する午後7時30分頃にはすっかり日も落ち、到着した子どもたちは順番に並んで参加賞のお菓子の詰め合わせをもらい、友達や保護者と一緒にうれしそうに帰路についていきました。

提灯行列の開催を通じて、協力をしてくれた地域の方々や参加したお子さん、保護者が一体となり行事を盛り上げ、地域のつながりを深めることができた良い機会だったと思います。

開催にあたり、当委員会のスタッフの他、本木・関原地域の8町会や少年団体協議会、母の会、保護司会、民生委員、学校、消防団、警察署の多くの方々に、事前準備や会場整理、交通整理、参加賞の配付などにご協力をいただき、子どもたちにとって思い出深い行事を無事に終えることができました。



ゴール地点の関原の森に到着した参加者



ゴール地点で参加賞のお菓子をもらう子どもたち

▶参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想

参加した子どもたちからは、いつも暮らしている地域で初めて体験する行事に「楽しかった」「また友達と参加したい」などの声があり、この地域のお盆の風習を学び、郷土に愛着を持ってもらうことができたと思います。また、関原通りを通りかかった中学生や高校生は、小さい頃に参加した提灯行列を懐かしんで途中から参加する光景も見られ、同様に同行する保護者の中にも子どもの頃に提灯行列に参加していた方もいて「懐かしい」との声があり、世代を超えて地域に根付いた行事であることを感じることができました。

参加したスタッフからは、事故がなくゴール地点まで歩くことができ「無事に終わってよかった」「子どもたちの夏の思い出になってよかった」「今回の課題を次年度に活かしてよりよい行事にしていきたい」との声が聞かれました。

▶事業を通して得られたものや課題

この行事には当委員会のスタッフの他にも多くの団体や地域の方々に関わっていただきました。これらの大人たちに見守られながら、子どもたちは普段生活している地域を改めて歩くことで、地域の一員としての自覚が芽生え、人と人とが触れ合うことの大切さを学ぶことができたと思います。

この他、日頃地域の中で接する機会が少ない方々にも多く参加していただき、また、行事の開催にあたり多くの団体、地域の方々の間でも交流を深めることができ、地域のつながりの機会の創出に寄与することができたと感じました。

▶ 今後へ向けての抱負や展望、感じたこと等

地域のつながりが希薄化しつつある現代ですが、提灯行列は地域や人とのつながりを深めるだけでなく、子どもたちの郷土愛を育み、地域の昔ながらの風習を学んでもらう良い機会であることを再認識しました。

提灯行列を継続して行っていくにはイベントに関わる多くのスタッフや協力団体が必要です。今後は現在のスタッフや協力団体のみならず、小さい頃に提灯行列を体験した若い世代の方々にもボランティアとして携わっていただけるようアピールをしていき、この地域に根付く行事を次世代につないでいければと思います。

モデル事例の指定のポイント

- 参加した方たちの様子として、小さい子達楽しそうにしていた。高校生が懐かしさを感じて途中から参加してくれ、ボランティアとしての参加も期待できる。
- 成果として60～70年前に始まり平成28年に一度途絶えてしまったが、地区委員会がこれまでの健全育成事業のノウハウを活かし、昨年度復活させ、さらに地域の繋がりを深めることができた。
- 毎年子ども、大人含めて700～800名（小学校低学年の参加者が多いが、中学生の参加者も見られる）、令和6年度は650名（足立よみうり新聞より）。

連絡先

足立区地域のちから推進部 地域調整課 梅田区民事務所
電話番号 03-3880-5381

野外活動学習会

事業開始の経緯

小学生を対象として、当初は野外活動を通して集団生活の基本を学んでもらうとともに、心身ともに健やかに育つことを目的として事業を開始しました。近年は普段の生活ではなかなか出来ない梨狩り、芋掘りなどの体験や、施設見学によって知識を深めてもらう形式に変えて実施しています。

実施日時・場所

- ・ 実施日：令和6年9月22日（日曜日）
- ・ 実施場所：筑波海軍航空隊記念館（茨城県笠間市旭町 654）
常陸風土記の丘（茨城県石岡市染谷 1646）
福田グリーン農園（茨城県かすみがうら市下佐谷 777）

組織体制

子ども 33 人、当委員会理事・委員・町会役員 14 人、区職員 2 人

事前準備、周知・広報

本木・関原地域の 8 町会から地域の方々にチラシで周知するとともに、この地域で多くの子どもたちが通う足立区立関原小学校に在校生分のチラシを配付して参加を呼びかけました。申込方法については、申込書を記入のうえ各町会に申し込んでもらいました。

事前準備として令和6年2月、野外活動学習会に同行する当委員会の会長及びスタッフが事前に筑波海軍航空隊記念館を訪問、視察して学習会の実施に備えました。

事業の流れ・内容

令和6年度は、子どもたちに下記施設の見学及び体験をしてもらいました。

【当日の行程】

- 集 合：本木・関原地域
- 1 か所目：筑波海軍航空隊記念館（施設見学）
- 2 か所目：常陸風土記の丘（昼食、ちびっこ広場・獅子頭展望台見学）
- 3 か所目：福田グリーン農園（栗拾い）

当日の実施の様子

当日は、大型バス1台を借り上げて午前8時に足立区関原を出発しました。最初の視察先である筑波海軍航空隊記念館は日本最大の戦争遺構で、映画『永遠の0』の物語上の舞台、撮影地となったところです。視察は子どもたちと同行の大人を2班に分け、現地のガイドさんが施設内の資料やパネル展示、旧筑波海軍航空隊の史跡などにより、戦争の悲惨さを丁寧に説明していただきました。子どもたちはガイドさんの説明に熱心に聞き入り、戦争の悲惨さや平和の尊さについて考える貴重な機会となりました。

次に、常陸風土記の丘に移動して子どもと大人が一緒になって昼食をとり、疲れ知らずの子どもたちはちびっこ広場や獅子頭展望台の中で元気いっぱい遊びまわっていました。

学習会の締めくくりは栗拾いです。当初はぶどう狩りを予定していましたが、夏の猛暑によりぶどうの収穫が早くに終わってしまったことで栗拾いに変更となり、楽しんでくれるかどうか少し心配しました。しかし、子どもたちは友達と一緒にバケツいっぱいの栗を収穫して満足そうな表情でした。



筑波海軍航空隊記念館でガイドさんの説明を聞く子どもたち



栗拾いをする子どもたち

いくつかの小学校、学年も違う子どもたちが参加しましたが、学習会を通じて普段は接することがない子ども同士の交流も図ることができた良い機会だったかと思います。

事業を通して得られたものや課題

普段の学校の授業だけでは学ぶことのできない場所で、直に見て、学んで、自然と接する貴重な経験をしたことは子どもたちが成長するうえで大きな財産になりました。

一方で、コロナ禍により令和2年～4年にかけて事業を中止し、令和5年に再開しましたが、参加者がコロナ禍前より減少傾向にあるために、どのようにしたら以前のように多くの子どもたちに参加してもらおうことができるかが課題です。

【過去の実施内容】

年 度	内 容
令和5年度	つくばエキスポセンター、梨狩り
令和元年度	成田ゆめ牧場（さつまいも掘り、乳しぼり、バーベキュー）
平成29年度	京急油壺マリンパーク
平成28年度	よこはま動物園ズーラシア
平成27年度	つくばエキスポセンター、筑波宇宙センター
平成26年度	鉄道博物館、埼玉県立羽生水郷公園
平成25年度	日本航空整備工場見学、葛西臨海公園

※平成30年度は台風により、令和2～4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

第 37 回第七地区町会連合大運動会

事業開始の経緯

子どもから高齢者までを対象とし、家族ぐるみ・地域ぐるみでスポーツにふれあいながら、青少年の健全育成、健康維持、体力向上及び地域社会の連帯を深める目的で、当委員会と第七地区町会連合会、第七地区少年団体協議会の主催で毎年 10 月に行われ、令和 6 年で 37 回目の開催に至りました。

実施日時・会場

- ・ 実施日：令和 6 年 10 月 20 日（日曜日）
- ・ 実施会場：足立区立第七中学校校庭（足立区関原三丁目 32-14）

事前準備、周知・広報

7・8 月の当委員会の理事会で競技種目や各競技の詳細などを検討し、当委員会のスタッフの他に本木・関原地域の 8 町会からご協力をいただける実行委員（各町会 15～20 名程度）を推薦してもらい、10 月の運動会実行委員会を経て開催を迎えました。

周知・広報については、町会掲示板にポスターを掲示し、チラシを回覧して周知を図りました。

組織体制(協力団体やスタッフの構成)

運動会実行委員 153 名（当委員会スタッフ、町会、近隣病院、開催中学校）

事業の流れ・内容

令和 6 年度は、以下の競技を行いました。

【競技種目】

No	競技種目	対 象
	開会式	
1	50 m 競走	
2	魚つり競走	小学 1～3 年、60 歳以上、来賓・役員
3	町会対抗紅白玉入れ（予選）	小学生以下、一般
4	絵あわせ走	小学生以下、一般
5	障害物競走	小学 4～6 年、一般
6	消防団資機材説明	西新井消防団第一分団
7	借物・借人競走	小学生・一般
8	町会対抗紅白玉入れ （準決勝・3 位決定戦・決勝）	小学生以下・一般
9	町会対抗むかで競走 閉会式（成績発表・表彰式）	一般

※ 「小学生以下」は幼児を含む、「一般」は中学生以上

当日の実施の様子

運動会開催前日に本木・関原地域の 8 町会の実行委員がテントの設営や景品の準備を行い、開催場所の第七中学校のご協力によりライン引きを行いました。

開催当日、実行委員は午前 8 時に会場に集合して最終準備を行いました。天候にも恵まれ絶好の運動会日和となり、開会式を前に各町会の参加者が続々と来場し、午前 9 時に開会式が始まりました。開会

式では大会会長である当委員会会長からあいさつがあり、大会顧問の第七地区町会連合会会長、来賓の足立区教育長、開催校の第七中学校校長からもごあいさつをいただきました。続いて前回大会の入賞杯の返還や地域の子どもたちによる選手宣誓、準備体操がありました。

午前9時40分から競技開始です。50m競走は小学生と中学生以上に分けて行われ、参加した皆さんが全力で走る姿が印象的でした。

魚つり競走はおもちゃの釣り竿で魚の絵を釣る競技で、小さなお子さんがメインでしたが、大人や来賓・役員の方々にも参加してもらい、釣り竿の操作に苦戦する姿もみられ、会場は笑顔に包まれました。

絵あわせ走は同じ絵を2枚探し当てる競技で、小さなお子さんと大人に分けて行われ、参加された方は一生懸命、同じ絵を探していました。

障害物競走は小学校高学年以上と大人が出場しました。ハードルをくぐる又は飛ぶ、椅子に置いた風船を座って割る、ネットをくぐる、麻袋でカンガルー跳びをするという体力を使う競技で、参加者は達成感とともにヘトヘトになっている方がたくさん見受けられました。

借物・借人競走はスタート直後に借物カードを取り、それに書かれた条件の借物と借人を探し出して2人でゴールするという競技です。参加者はカードに書かれた条件の方を探すために校庭を四方八方へと駆けまわり、お目当てを探し当てると笑顔で一緒になってゴールしていました。

運動会のメインとなるのが町会対抗の競技で、紅白玉入れとむかで競走を行いました。紅白玉入れはトーナメント制で実施し、大人と小学生以下の子どもたちが一緒になって玉入れをめがけて投げ込んでいました。

むかで競走は男性・女性4人に分かれ、折り返し地点で交代する形で行われました。息がぴったりで早く走るチームもあれば、慎重に足を合わせゆっくりと走るチームやうまく合わないチームもあり、各競技ともに大いに盛り上がりました。

午後12時30分に競技が終了。午後1時から閉会式及び表彰式が行われ、紅白玉入れとむかで競走の上位3位の町会にメダルが授与、総合順位の上位3位までの町会にトロフィーが贈呈されました。

事業を通して得られたものや課題

本木・関原地域の8町会の多くの方々が集まり、運動を通じて地域の交流を深めることができました。また、子どもたちにもたくさん参加してもらい、体力の向上のみならず地域の一員としての自覚も芽生えたかと思います。

一方、運動会もコロナ禍で令和2～4年にかけて中止となり、令和5年の再開後は時間を短縮して開催していることもあり参加者が減少しています。地域にとって伝統ある大切な行事を継続しつつ、より良い大会にしていくにはどうすればよいか今後の課題です。



50m競走を全力で走る子どもたち



町会対抗むかで競走の様子

「親子野外映画会」

地区委員会の概要

小岩中部地区委員会は、5つの町会・自治会から選出された委員の他、地域各校PTA関係者、商店会、青少年委員、保護司、スポーツ推進委員など53名の委員で構成されており、広報部、研修部、事業部、環境部、財務部、監査、青少年・スポーツ推進委員の組織に分かれて活動しています。モデル事業となった親子野外映画会を実施した事業部では、こどもから大人まで幅広い年代の方が参加できるイベントを企画し、地域の青少年の健全育成に努めています。

▶事業開始の概要

この事業は、映画を観る機会がないこどもたちの為にといい思いで、さらに室内ではなく野外の校庭で上映出来たら、地域のこどもたちにとって特別な体験になるのではないかと考え、平成11年より始めました。

事業が始まった当初は、「野外映画会」として、幼児向け、児童向け、一般向けにショートフィルム（30分アニメなど）3本を上映していました。現在は、「親子野外映画会」と表題し、1本の長編（通常）映画を上映しています。親子で映画を見てもらうことで、家庭での会話の機会を増やすこと、映画会を通じて地域のコミュニティの醸成を深めることを目的としています。長年継続して行っている事業ということもあり、例年実施日について問い合わせがあり、地域に根付いている事業となっています。

参加は、小岩中部地区在住の親子、管内小学生を対象としています。協力団体としては、小岩中部地区五町会、東小岩小学校PTA、小岩小学校PTA、小岩第一中学校PTA、各種団体（青少年委員など）になります。

実施に向けては、事業部会を実施し、実施日の決定、複数の候補から上映作品の選定、当日の流れの確認、会場レイアウトの作成、参加スタッフ・PTA・ボランティアの募集、地区委員会OBや地域の協力者への声掛け、会場への協力依頼などを行いました。

例年、スタッフ、観客を合わせて地域で約700名前後の参加者となっており、地区委員会のイベントとしては大規模なものとなっています。

実施日：令和6年9月7日（土曜日）18時30分～21時00分

※上映は18時40分～20時05分 上映作品「FLY! / フライ!」

会場：東小岩小学校校庭（江戸川区東小岩四丁目12-1）

参加人数：こども462名、大人221名 ほか地区委員、PTA、事務局 計748名

▶事業の周知について

事業の周知については、町会・自治会へのチラシの回覧、掲示板へのポスター掲示、管内小学校へのポスター掲示、チラシの配布をそれぞれ依頼するとともに、小岩中部地区公式X（旧Twitter）への投稿を行いました。また、騒音問題の観点から会場の近隣宅に事業実施に対してご理解をいただくためにあいさつ文とチラシのポスティングも行いました。

▶当日の実施の様子

当日は、天候に恵まれました。運営側のスタッフは、合計で65名程が参加しております。15時から準備をスタートさせ、校舎にスクリーンを設置する班と校庭にブルーシートを敷く班、音響、プロジェクターを設置する班、校門への看板設置をする班などに分かれてそれぞれ準備を行いました。

上映用スクリーンは10m×5mの大きさのものを使用しています。上下につなぎ合わせた単管パイプを付けて、屋上からロープでつるして校舎の外壁に設置します。設置の際は、屋上に行く担当と校庭にいる担当に分かれ、最終的に適正な位置を決め、設置完了となります。このスクリーン設置作業については人員も時間も多く要する作業となっています。これまで経験しているスタッフを中心となって、準備を進めました。



スクリーン設置

校庭へのブルーシートは、合計24枚敷きます。風で飛ばされないように釘を打ち設置していきます。上映中はこのブルーシートに座って鑑賞してもらいます。今回の実施に関しては天候に恵まれたため、特別な問題は発生しませんでした。雨天時にはブルーシートが濡れてしまうため、下に敷く段ボールを準備することもあります。



上映前の打合せの様子

音響は、アンプの調整、ラップスピーカーを2台設置、開会式用のマイクの準備等を行いました。座る位置によって聞こえ方に差がないか、近隣の迷惑になるような聞こえ方がしていないか等、確認を行いました。

プロジェクターの調整については、暗くならないとスクリーンに映像が映らないため、日が沈んでからの作業となります。概ね17時頃には準備が完了し、漏れがないか最終チェックをしました。この時間の頃には、上映前に関わらず、校庭正門前には上映を待ちきれない子どもたちが集まっていました。



受付



本部・救護所

17時50分頃より、学校外で警備をするスタッフがそれぞれのポイントにつき、18時より受付を開始しました。受付開始後、会場には、小学生とその保護者をはじめ、幼児がたくさん入場してきました。また、中学生の姿も確認することができました。

18時30分より、地区委員長のあいさつ、管内学校長あいさつ、事業部長からの演目紹介。また、純粹に映画を楽しんでもらうために、上映中のゲームやおしゃべり、スマートフォンの使用、食べ物を食べることについて禁止する旨の諸注意を行いました。

18時40分より上映がスタート、上映時間は約80分です。今回上映したのは2023年に大ヒットしたコンピュータアニメーションのファミリーアドベンチャー映画「フライ！」です。渡り鳥なのにアメリカ・ニューイングランドの小さな池から一度も出たことないカモの一家が、カリブ海のジャマイカを目指して3,000キロの大移動に乗り出す姿を描いた作品を、皆さん楽しんで観てくれている様子でした。

音響については、上映開始後も風向き等で聞こえ方が変わることもあるため、随時注意を要することになります。また、前述したように、それぞれのポイントに警備を配置していますが、会場への誘導や防犯への側面からも非常に重要なものとなっています。

20時05分頃に上映が終了し、閉会を行い、順番に退場する運びになりました。上映後は友達同士や親子で楽しみを共有し合う様子、こどもたちがスタッフに感謝を述べる様子などが確認できて、非常に楽しんでいただけたようでした。このような状況を目にすると、本事業は改めて、地域のコミュニティの醸成に非常に重要なものだと感じることができました。20時15分頃に退場が完了し、撤収作業をスタートしました。準備開始時と同様にそれぞれ班に分かれ、21時頃に撤収完了となりました。



上映前の様子



上映中の様子

▶参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想

この事業は映画会を通じ、親子でのふれあいは勿論のこと、こどもたちが地域の方とのコミュニティや繋がりを深めることを目的としていますが、上映終了後、参加者側からは「楽しかった」「おもしろかった」「来年もやってほしい」といったお声が聞こえていたことから、非常に満足していただけていることが分かりました。スタッフ側でも、このような参加者側の様子から、とてもやりがいを感じています。

また、準備する段階から、地区委員会、会場校、学校PTA、青少年委員などの様々な団体が、綿密に打ち合わせやコミュニケーションを取り、協力・連携をしています。結果的に、スタッフ側もこの事業を通して、成長していると感じており、モチベーションの向上にもつながっています。

▶事業を通して得られたものや課題

事業を通して得られたものとしては、地域コミュニティの強化が挙げられます。例年、大勢の参加者が集まるこの映画会を通して、地域の交流が深まっている様子が感じられます。このような状況から、少子高齢化の中ではありますが、地域にとって必要なものと感じています。スタッフ側としても、参加者が多く集まっている状況からこれからも続けていく励みになります。

課題としては、町会、自治会などの地域活動が縮小していく中で、本事業のスタッフ、協力者をどのように集めていくかということ、騒音対策（音響や帰宅する際のスムーズな誘導）、雨天候時における中止判断、上映作品の選定など多岐にわたりますが、地域の協力を得ながら、その都度、最善の方法を模索して継続的な改善を図っていきたいと考えています。

▶今後へ向けての抱負や展望、感じたこと等

地域で子どもたちにできる事と先駆者は考え、形を変えながら今日まで来ました。途中コロナという感染症が流行し、映画会の開催を断念しました。開催できない期間でこどもの数にも微妙な変化が表れ始めていました。

しかし、制限がある中で3年ぶりに「親子野外映画会」を開催した年、子どもたちは忘れないでいてくれました。久しぶりの映画会でしたが、「楽しかった」「面白かった」と反応を示してくれたのです。私たちはあきらめず、子どもたちに楽しみを贈れることに、大きな喜びを感じ、今後の展望にも希望を持つことができました。「親子野外映画会」を完全復活させることができ、運営側の喜びもひとしおでした。

これからも地域とコミュニケーションを取りながら、より絆が深くなるよう携わっていきたいと思います。

モデル事例の指定のポイント

- 親子で映画を見ることにより、内容について話し合ったり、感情を共有したりといった、双方のコミュニケーション・親子でのふれあいの契機にもなっている。
- 事業を通して、子どもたちが近所の大人と顔見知りになることで、コミュニティや繋がりを深める取り組みとなっている。
- 地域に根付いている事業のため例年「チラシまだですか。」との問い合わせがあり、令和6年度から始めた公式X（旧Twitter）を見て来場した人もいた。
- 令和6年度の参加人数は748名（子ども462名、大人221名、ほか地区委員・PTA・事務局65名）、例年700名～800名が集まっている。

連絡先

江戸川区小岩事務所地域サービス係
電話番号 03-3657-7836

『近所』から『近助』へ ～中学生を対象とした総合防災競技大会プロジェクト～

地区委員会の概要

江戸川区には 273 の町会・自治会があり、17 の地区委員会が設けられています。

瑞江地区委員会は、江戸川区の東側に位置する新中川と旧江戸川に囲まれた水の都で、都営地下鉄新宿線「瑞江駅」を中心に区画整理事業が進められた快適な環境でありながら、昔ながらの町並みも多く残る、新旧の融和が織りなす素敵なエリアであり、人の和を大切にす人情と活気にあふれたふるさとにあります。

当地区委員会は 12 の町会・自治会から選出された委員や近隣小・中学校 P T A、民生・児童委員、保護司、子ども会、青少年委員、スポーツ推進委員、少年野球連盟等々の代表者など総勢 101 名の委員で構成され、4 つの専門部会に分かれて活動しています。ひとくちに「青少年の健全育成」といっても、昨今の社会情勢もあり、絶えず変化を恐れず、柔軟にカタチを変えながら、子どもたちの成長を支えられるよう努めています。

▶事業開始の背景

東日本大震災を多くの大人は都心部で体験し、帰宅難民となり、深夜ようやく自宅へ帰り着いたことでしょう。その時、「発災時のふるさとの状況はどうだったのか」を知る由はありませんでした。数日が経ち落ち着きを取り戻した頃、地区委員の間から自然と「防災への意識」「備え」について活発な議論が行われるようになりました。当然ながら震災以前も防災訓練は欠かしたことの無い地域ではありますが、あの日を境に劇的に意識が変わったことも事実です。そこで「あの時間に、このふるさとで、一番活躍できたのは、中学生だったのではないか」ということに改めて気が付きました。

そこに気が付いたものの、どうアプローチして、どうカタチにすれば良いのか、見当もつきませんでした。地区委員会の各種行事や専門部の会合でも、この話は良く語られましたが、実際に動くことはできませんでした。

組織とは、毎年の繰り返し、リピートさえしっかりとこなしていれば、問題なく成立します。その反面、新しいものを取り入れ、作り出すことに対しては、ある種のハードルや抵抗感がありました。「やらないより、やった方が良い」ということは、誰もが意識として持っていたも、今以上に負担が増えることに対して、二の足を踏んでしまいます。

そんな中、江戸川消防少年団の団長や地元消防団の分団長を歴任するなど、地域防災に深い知見と実行力を持つ現地区委員長が中心となったことで、プロジェクトが本格的に動きだしました。

江戸川区は令和 4 年に公表された「首都直下地震等による東京の被害想定」によると、最も被害が発生する区のひとつとされている地域であり、地域住民の防災への意識の高いエリアでもあります。しかし、将来の地域の担い手となる中学生の防災への関心の低下、加えて町会を構成する会員の高齢化、更に加齢率の低下に伴い、地域防災力の低下が同じ曲線をたどり、課題となっています。

このような中、地域防災力の維持・向上のためには、我が街を良く知り、かつ体力的に充実している中学生に、被害時において復興の力となってもらえるような体験をしてもらい、楽しみながら防災意識及び防災行動力を向上させるとともに、中学校や町会・自治会に加入していない住民が地区委員会や町会・自治会、消防団等々で顔見知りとなることで、既存のコミュニティを超えた関係を構築し、地域全体の共助力の向上を計ることが必要であると考え、本事業の解決のために、今回の総合防災競技大会の実施に取り組みました。

・事業のイメージを固める為に

令和6年12月、各専門部会が一年の活動報告を行う「全体会」の中で、町会・自治会長や学校関係者へヒアリングを行い、事業のイメージを固めて行きました。

・ヒアリングで見えてきたこと

- ①地区委員会の行事は小学生が対象のイベントが多く、中学生とのかかわりが希薄である
- ②町会単位の防災訓練は盛んだが、地区委員会としても何か防災イベントができないか
- ③中学生をどんどん地域へ招き、ボランティア活動してもらおうのほうか

上記は抜粋であるが、本当に多くの意見を聞くことができ、これらをもとに考察すると「やりたい事」が明確に見えてきました。

・やりたい事、イメージ

管内中学校4校対抗による消防操法大会のようなもの

※消防操法大会とは、消防団等々で迅速、確実かつ安全に行動するために定められた、消防用機械器具の取扱い及び操作の基本について、その技術を競う大会

・事業化への取り組み

その後の役員会で「管内中学校4校対抗による消防操法大会のようなもの」を新規事業として実施することを確認しました。

加えて、地域の消防団と所轄消防署の協力や町会・自治会長へ理解を得るべく働きかけなどを行い、中学校関係者からも前向きな反応が得られたため、事業に向けて本格的に動き出しました。

▶事業取組の概要

・事業の目的

地域防災の新たな担い手となりうる中学生の防災意識と防災行動向上のため、より興味を引くように競技性を高め、競い合う、総合的な防災競技大会の初開催を目指します。

実践的な防災体験を通して、中学生に防災意識と行動力の向上、被災した瞬間に何をすればいいのか、躊躇せず自信を持って行動できるよう訓練しておく必要があります。本事業へ参加することにより、地域住民との交流が深まり「知り合い」となります。「知り合い」となることにより、地域全体の共助力が向上し、「近所」の人と「近助」を完成させ、加えて、地域の人々からのオーダーや指示を理解し、的確に行動できるよう準備しておくことを目的としています。

また本大会を通して、参加選手である中学生はもとより、大会を観戦に来られた地域住民ひとりひとりが、町会の枠を超えて顔見知りとなることにより、地域の防災力の向上も目的とします。

・事前準備

これまで我が地区委員会での事業遂行に関しては、専門部会が母体となり役員を加え、スムーズな運営を行って来ましたが、本事業は「ゼロベース」からの立ち上げのため、所管する専門部会が存在しません。まずは母体となる専門部会を臨時に組織することから始めました。メンバーを役員、専門部部長、専門部副部长、青少年委員、スポーツ推進委員とし、仮称「防災部」が誕生しました。

・第1回 防災部会実施：令和6年4月22日（月曜日）

会議内容 防災部新設の承認と必要物品の洗い出し

会場は瑞江第三中学校に決定 学校からの借用備品等々洗い出し

参加した中学生（選手）への参加賞、記念品、江戸川区危機管理室より「防災用クラッカー」 備蓄入れ替え時の物の配布等々検討

告知用ポスター作成について検討

出場選手募集と大会開催告知及び送付先の検討

競技案の検討 ①放水訓練②バケツリレー③救助訓練

上記3つの競技で得点を競う

・第2回 防災部会実施：令和6年5月22日（火曜日）

会議内容 競技内容ブラッシュアップ 各競技の詳細ルール確定

実施計画策定（当日の動き及び役割分担）

開催時期が夏休みということもあり、熱中症対策やアラート発令時の対応について検討

・第3回 防災部会実施：令和6年6月4日（火曜日）

会議内容 本大会の規模を再検討

ここまで2度の専門部会を重ねた結果、大会自体の運営や準備に関して万全であったため、もっと大きな大会にできないか。起震車やVR・まちかど防災車等々を依頼して、地域ぐるみの防災イベントとするのはどうかなどの意見が出たが、本来の狙いを確実に成果へ変えるために総合防災競技大会のみの実施とすることで決定

・第4回 防災部会開催：令和6年7月19日（金曜日）

会議内容 本番前最後のミーティングのため、確認事項を再度チェック

地区委員会でも1チーム結成し参加することが全会一致で決定した

・第5回 防災部会開催：令和6年9月30日（月曜日）

会議内容 大会終了後の反省 次回開催へ向けての準備、申し送り等確認

▶実施概要

第1回 総合防災競技大会

・実施日：令和6年8月10日（土曜日）

・実施場所：江戸川区立瑞江第三中学校（江戸川区東瑞江一丁目38-3）

競技内容

①放水訓練

ポンプを使った放水訓練。1チーム3名で役割分担（リーダー・放水・ホース延長）し、標的に放水するまでのタイムを競います。



放水訓練

②バケツリレー

簡易水槽からポリバケツにて水をすくい、1チーム5名で2ヶ所の障害物を手渡しでクリアしながらバケツリレーを行い、ゴールの大型ポリバケツへ注水し、中のカラーボールを水と一緒に溢れ出したタイムを競います。



バケツリレー

③救助訓練

倒壊家屋から要救助者を救出し担架で救護所まで搬送することを想定した訓練。1チーム5名で行い、開始前に消防団員と救助方法の打ち合わせを行い、指揮者の号令で競技を開始します。負傷者を安全に救護所へ搬送したタイムで競います。



救助訓練

これら3つの競技の総合得点により順位を確定。

雨天時もしくは熱中症アラート発令時は、体育館で1チーム5名により、6つの訓練（伝達通報・消火・障害物通過・救出・搬送・狭あい路通過）も検討。

参加者数 選手（中学生）37名

観戦者（地域住民）約100名 地区委員会役員等 20名

合計 約150名強

協力団体 江戸川消防署 江戸川消防団 共育プラザ南篠崎 なごみの家瑞江

▶当日の様子

当日は薄曇りの中、熱中症アラートの発令はなく、この時期としては最高の条件のもと、初めての大会が開催されました。

出場選手（中学生）は精一杯、持てる力を全て出し切ったと思われます。全ての選手は笑顔で

競技に向き合い、指導していただく地元消防団の皆さまの教えをしっかりと守り、次々と3つの競技が進みました。

競技の順番を待つ間は地区委員の皆さんや観戦に来てくれた地域の人々と笑顔で会話をかわし、素敵な交流の時間となりました。更に、地区委員会で結成したチームも全ての競技にエントリーし、競技によっては中学生を圧倒する場面もあり、地域の大人たちが真剣に競技に取り組む姿は、中学生にとっても良い刺激となり、大会に一層の彩を加えてくれました。

競技中、会場にはライブで実況を入れることにより、観戦者はもちろん、競技の順番を待つ選手にも状況が的確に伝えられ、会場は大いに盛り上がりました。競技大会でありますので順位は付けましたが、出場者選手全員とても誇らしげな表情が印象的でした。

真夏の酷暑時期の開催であったため、準備等々大変なこともありました。体調不良者やケガ人を出すこともなく、無事故で大会を終えることができました。



表彰式



集合写真

【本大会に参加者へのアンケート調査】

<問1> 本日の総合防災競技大会の評価について、今後も開催されるとしたら、もう一度参加したいか

回答 参加意欲について、「そう思う」と「ややそう思う」が約96%であった。その内訳は、中学生が約92%、地区委員は100%だった。

<問2> 本日の総合防災競技大会に評価について、今後も開催されるとしたら、友人に参加を進めたいか

回答 「そう思う」と「ややそう思う」が約92%であった。その内訳は、中学生が約92%、地区委員は約92%だった。

<問3> 本日の総合防災競技大会の評価について、火災が発生した時に消火に協力したいか

回答 「そう思う」と「ややそう思う」が約92%であった。その内訳は、中学生が92%、地区委員は約92%だった。

<問4> 本日の総合防災競技大会の評価について、地震発生後に、閉じ込められた人の救助に参加したいか

回答 「そう思う」と「ややそう思う」が約92%であった。その内訳は、中学生が約92%、地区委員は約92%だった。

<問5> 本日の総合防災競技大会のなかで地域の人（大人）と会話をする機会はあったか

回答 「話した」と「少しだけ話した」が約79%であった。その内訳は、中学生が約89%、

地区委員は68%だった。

<問6> これまで地域で行われる防災訓練や防災イベントに参加したことはあるか

回答 約62%が参加したことがあった。その内訳は、中学生が約42%、地区委員は約84%だった。

<問7> 本日の総合防災競技大会に参加したことによって近所で開かれる防災訓練にも参加してみたいと思ったか

回答 約79%が「参加したい」であった。その内訳は、中学生が約67%、地区委員は約92%だった。

<問8> 災害が発生した時に身の回りの人や地域の人を助けるために、あなたはどのような協力ができると思うか（自由記載）

回答 「できる範囲で活動」が12件、「声を掛け合い活動」が9件であった。

▶おわりに

本大会実施後のアンケート結果を見ると、当初の狙い通り、大会の参加をきっかけに多くの中学生が地域防災への参画の意向を持つようになったことから、若者世代の地域防災への参画意識を醸成することができました。また、大会を通して地域住民との交流もしっかりと図られたことがわかります。

中学生と地域住民の交流が生まれ、顔見知りの関係ができたことから、若者世代と地域住民との「つながり」をつくることができました。

本プロジェクトは今回が第1回であり、瑞江地区のみの開催となりましたが、次回以降は対象地域の拡大を念頭に、青少年の健全育成に尽力いただいている関係諸団体や地元企業へのアプローチを行い、参加者を増やす事により、コミュニティ同士の輪を広げ、災害時に相互で助け合うことのできる関係性を構築していくことを進めてまいります。

モデル事例の指定のポイント

- 実践的な防災体験を通じて意識と行動力を高めると同時に、地域住民との交流を促進することで地域全体の共助力向上を図ることができた。
- 主なイベントで中学生向けのイベントを開催していなかったため、中学生を対象とした防災競技大会を開催 ⇒ 今後、中学生のボランティア参加も期待できる。
- 大会に参加した生徒が、「江戸川区長新春インタビュー」で来年も参加したいと答えていた。
- 中学生へのアンケートで「火災が発生した時に、消火に協力したいと思いますか」の質問に対し、8割以上が「大会参加をきっかけに消火に協力したいと思います」と回答し、多くの中学生が地域防災への参画意向を持つようになったことから、若者世代の地域防災への参画意識を醸成することができた。

連絡先

江戸川区生活振興部東部事務所地域サービス係
電話番号 03-3679-1124

年度別青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例一覧

年度	事例名	場所	取組主体
平成 13 年度	Summer Store-School in 大久保	新宿区	新宿区立戸山中学校 P T A
	「わんぱく天国」における「すみだ四季友遊会」の活動	墨田区	すみだ四季友遊会
	星の会（市民ボランティア）による子育て支援活動	世田谷区	星の会（市民ボランティア）
	父親を中心とした子どもの育成活動【親父の会】	世田谷区	世田谷区立小学校 P T A 連合協議会
	ダンスイン・フェスタ舞祭組	杉並区	Dancin' Festa 舞祭組 (杉並区善福寺周辺)
	合宿通学	荒川区	合宿通学実行委員会 (町会、商店街、青少対地区委員会)
	西伊興龍巳組（親子民舞会）	足立区	西伊興小、西新井中、伊興中、第十四中 ほか
	「夏休み 40 日学校開放」フュージョン長池	八王子市	NPOフュージョン長池
	小平市すこやかコミュニティ・プロジェクト	小平市	小平市すこやかコミュニティ
平成 14 年度	わんぱくベンチャー 2002	新宿区	(社) 東京青年会議所新宿区委員会、 新宿区教育委員会
	わんぱく下町っ子祭り	台東区	台東区青少年対策地区委員会連合事業実行委員会
	思いやり ～子どもの光発見活動～	大田区	大田区立蒲田中学校区健全育成連絡会
	子どもに本の楽しさを伝える活動	北区	浮間図書館ブックボランティア、浮間図書館
	中学生・高校生のボランティア育成活動	練馬区	練馬区青少年育成第六地区委員会
	ふれあいフェスティバル 人とふれあい、地域の伝統・文化を知る	武蔵村山市	武蔵村山市第三中学校区教育推進協議会
	「やとっぱら遊びの日」の活動	西東京市	明葉跡地で遊ぶ会
平成 15 年度	子ども支援グループ「でんでん」の活動	北区	子ども支援グループでんでん
	高島平地区小地域ネットワークの活動	板橋区	高島平地区小地域ネットワーク
	丸ごと全部子どもまつり	練馬区	練馬区青少年育成第一地区委員会
	朝のさわやかあいさつ運動	立川市	立川市青少年健全育成柴崎町地区委員会
	サタディコンサート	町田市	町田市青少年健全育成成瀬台地区委員会
平成 16 年度	下町台東の美しい心づくり清川地区連絡会の活動	台東区	下町台東の美しい心づくり清川地区連絡会
	第三いきいき活動	大田区	大田区立東調布第三小学校
	滝五でよいしょ！パート 2	北区	北区青少年昭和町地区委員会
	朝の校外清掃の活動	北区	北区立岩淵中学校
	心の東京革命元八王子推進会の活動	八王子市	心の東京革命元八王子推進会
	おうめ子ども情報局の活動	青梅市	おうめ子ども情報局運営協議会
	ななお「土曜のひろば」遊学会の活動	日野市	ななお「土曜のひろば」遊学会
平成 17 年度	尾久地区「あいさつ運動」	荒川区	荒川区青少年対策尾久地区委員会
	原町会地域における「環境美化活動」	荒川区	荒川区立原中学校、原町会
	「むさしのジャンボリー」事業	武蔵野市	武蔵野市青少年問題協議会地区委員会
	青梅市親子ふれあい綱引き大会	青梅市	青梅市青少年対策地区委員長連絡協議会
	新入学児童自画像展	調布市	調布市健全育成推進若葉地区委員会
平成 18 年度	地域安全マップ作りを通じたあいさつ声かけ活動	新宿区	新宿区戸塚地区青少年育成委員会
	4 校一斉あいさつ運動	目黒区	目黒区第十中学校区地域教育懇談会
	あいさつ声かけ運動防犯パトロール	杉並区	杉並区馬橋青少年育成委員会
	池袋本町プレーパーク	豊島区	池袋本町プレーパークの会
	きたちゃんを探そう —地域の中で子どもを育み子どもの体験を豊かにする—	北区	北区青少年赤羽地区委員会
	砂川地区あいあいパトロール隊	立川市	立川市砂川地区「あいあいパトロール隊」実行委員会
	あいさつ運動と子ども見守り隊活動	調布市	調布市健全育成推進飛田給地区委員会
	本町第八第一町内会あいさつ運動	福生市	福生市本町第八第一町内会
	東愛宕地区見守り・声かけ運動	多摩市	多摩市青少年問題協議会東愛宕地区委員会

年度	事例名	場所	取組主体
平成 19 年度	おせっかいおじさん・おばさん運動	荒川区	「あらかわの心」推進運動区民委員会
	あいさつ運動（あいさつ標語募集）	杉並区	杉並区高円寺中央青少年育成委員会
	四葉スキー教室	調布市	調布市健全育成推進若葉地区委員会
	地域ふれあい学習	西東京市	西東京市青少年健全育成「にしはら」
	立川市立第二中学校地区朝の挨拶運動	立川市	立川市青少年補導連絡会二中地区地域別委員会
平成 20 年度	知っている人を増やそう	新宿区	新宿区四谷地区青少年育成委員会
	台東区少年リーダー研修会	台東区	台東区青少年指導者育成者会
	集まれ！おうめっ子	青梅市	集まれ！おうめっ子実行委員会
	おはよう de はじめよう	三鷹市	三鷹市第三中学校区
	「愛の一声」運動	小平市	小平市青少対学園東小地区委員会
平成 21 年度	鶉の木地区「オ・ア・シ・ス運動」の取り組み ～あいさつで心が通う地域の輪～	大田区	鶉の木地区オ・ア・シ・ス運動推進協議会
	「阿佐谷地区」の学校との橋渡しと地域教育力向上活動	杉並区	杉並区阿佐谷青少年育成委員会
	子ども会によるあいさつ運動	荒川区	荒川区レインボー子ども会
	合言葉は「あいさつのまち 徳丸！」	板橋区	板橋区青少年健全育成徳丸地区委員会
	あいさつは世界のあいことば	足立区	足立区青少年対策中川地区委員会
	ソフトボールを通した健全育成推進の活動	調布市	調布市健全育成推進上ノ原地区委員会
平成 22 年度	夢の島中学生体験プログラム	江東区	江東区青少年委員会
	～笑顔が育む子供の安全～	大田区	蒲田西地区 矢口子ども安全ボランティア 「スマイルネット」
	朝日に向かってチャレンジ 20km	調布市	調布小わんぱくおやじ倶楽部
	「地域のつながりの大切さ」 ～第二育成地域ふれあいひろばの取り組み～	狛江市	狛江市青少年第二育成委員会・ ふれあいひろば実行委員会
平成 23 年度	東京ナイトウォーク	江東区	江東区青少年対策小松橋地区委員会
	「わが町板八小の運動会」 ～地域と学校が力を合わせて実現～	板橋区	板橋区町会連合会富士見支部
	戸塚地区安全・安心マップ「とまっぷ」の作成について ～戸塚地区を「子どもを育てやすい、安全・安心なまち」へ～	新宿区	戸塚地区協議会とまっぷ実行委員会
	地域で育てるジュニアリーダー	世田谷区	青少年松沢地区委員会
	第 30 回三町合同中学生スポーツ大会 「高尾山ナイトハイク」	立川市	三町合同中学生スポーツ大会実行委員会 (曙町子ども会育成者連合会、栄町子ども会連合会、 高松町子ども会連合会)
平成 24 年度	「地域レクリエーション」 ～牛込第一・牛込第三中学校生徒会による企画・運営～	新宿区	新宿区単筈地区青少年育成委員会
	生徒の想い まつりを創る、文花中地域ふれあいまつり	墨田区	文花中地区青少年育成委員会
	親子で農業体験～じゃがいもクラブ・だいこんクラブ～	世田谷区	青少年上祖師谷地区委員会
	西砂川地域ふれあい松明祭り	立川市	立川市青少年健全育成西砂川地区委員会
	「三鷹中央学園の子どもたち」 ～おかあちゃんたちが創る、こどもたちの未来へのかけはし～	三鷹市	みたかスクール・コミュニティ・サポートネット
	子どもたちの食から地域のきずなまで、農業・食育体験教室	青梅市	青梅食育クラブ
	こどもの家オリエンテーリング	調布市	調布市健全育成推進染地地区委員会
平成 25 年度	「目黒区青少年委員会の試み」 ～中高生による駄菓子屋と工作教室の運営～	目黒区	目黒区青少年委員会
	あいさつ運動	目黒区	目黒中央中学校区地域教育懇談会
	栄町・若葉町青少健プール	立川市	青少健栄町地区委員会、青少健若葉町地区委員会
	「共成小地区委員会」～子供と大人、大人と大人の橋渡し～	昭島市	青少年とともにあゆむ共成小地区委員会
	一年生下校時付き添い隊・見守り隊	清瀬市	清瀬市青少年問題協議会第四地区委員会
平成 26 年度	みなとキャンプ村	港区	港区青少年対策地区委員会
	一中学区青少年対策事業 (標語コンクール・意見発表会・巣立ちの会)	三鷹市	三鷹市青少年対策第四・第六・南浦地区委員会
	青梅っ子わいわいフェスタ	青梅市	青梅市青少年対策青梅地区委員会

年度	事例名	場所	取組主体
平成 27 年度	落一育成会スノーツアー ～子供に雪国の楽しさ厳しさを体験させる～	新宿区	新宿区落合第一地区青少年育成委員会
	菅刈キャンプ ～「次世代コミュニティリーダー育成」の実践～	目黒区	目黒区菅刈住区住民会議青少年事業部
	商店街探検・店員体験	町田市	町田市青少年健全育成原町田地区委員会
	田んぼ・畑活動	町田市	町田市青少年健全育成小山田地区委員会
平成 28 年度	練馬区子どもフェスティバル	練馬区	練馬区青少年育成第四地区委員会
	いけばな子ども教室	調布市	調布市健全育成推進若葉地区委員会
	八ヶ岳キャンプ	多摩市	多摩市落合地区委員会
平成 29 年度	深小キャンプ	調布市	調布市健全育成推進深大寺地区委員会
	復興支援 フリーマーケットとおもちつき	小平市	小平市青少年対策二小地区委員会
	横山地区青少年育成ロードレース大会	八王子市	八王子市青少年対策横山地区委員会
	羽村市青少年健全育成の日事業（子どもフェスティバル）	羽村市	羽村市青少年対策地区委員会連絡協議会
平成 30 年度	中学生対象事業	品川区	品川区青少年対策荏原第三地区委員会
	ふれあいニューイヤーマラソン大会	江戸川区	江戸川区青少年育成葛西第二地区委員会
	小学校卒業記念ナイトウォーク	江戸川区	江戸川区青少年育成小松川平井地区委員会
	もちつき会	あきる野市	あきる野市青少年健全育成五日市地区委員会
令和元年度	牛込第二中学校との連携事業	新宿区	新宿区早稲田地区青少年育成委員会
	農業体験学習（田植え・稲刈り）	大田区	大田区青少年対策新新宿地区委員会
	防災キャンプ	大田区	大田区青少年対策蒲田東地区委員会
	学校プレイパーク	江戸川区	江戸川区青少年育成松江北地区委員会
令和 2 年度 (リーフレット※)	じゃがいもクラブ	世田谷区	世田谷区青少年上祖師谷地区委員会
	【在宅版】みねまち親子木工教室	大田区	大田区青少年対策嶺町地区委員会
	職場体験・動画版	墨田区	墨田区桜堤中地区青少年育成委員会
	一小地域ままもりクエスト	武蔵野市	武蔵野市青少年問題協議会第一地区委員会
令和 3 年度	文の京こどもまつり	文京区	文京区青少年健全育成会九地区合同行事実行委員会
	建築家 隈 研吾 氏 講演会	大田区	大田区青少年対策田園調布地区委員会
令和 4 年度	すみだっ子たちの夢支援	墨田区	墨田区青少年育成委員会連絡協議会
	～夏休み企画～親子で楽しもう！えびごリアルクエスト☆	品川区	品川区青少年対策荏原第五地区委員会
	我が町探検！防災ウォーキング	板橋区	板橋区青少年健全育成中台地区委員会
	謎解きゲーム「第八版 北町の刃なぞとき編」	練馬区	練馬区青少年育成第八地区委員会
	CAP(キャップ) ワークショップ	武蔵野市	武蔵野市青少年問題協議会第三地区委員会
	平和への願いを込めて折り鶴を折ろう	国分寺市	国分寺市青少年育成南地区委員会
令和 5 年度	親子でボールと遊ぼう！	世田谷区	世田谷区青少年砦地区委員会
	小松川平井マラソン大会	江戸川区	江戸川区青少年育成小松川平井地区委員会
	城山防災・スポーツフェスティバル	八王子市	八王子市青少年対策城山地区委員会
令和 6 年度	田園調布地区青少対講演会「武隈親方のお相撲教室」	大田区	大田区青少年対策田園調布地区委員会
	下小岩たんけん隊～屋形船たかはし丸に乗ろう～ 新中川の水辺の生き物と治水の歴史について	江戸川区	江戸川区青少年育成下小岩地区委員会
	地区を超えるジュニアサブリーダー養成活動：継承者の育成 に向けて	調布市	調布市健全育成推進第一地区委員会 リーダーグループ 一風 調布市健全育成推進富士見台地区委員会 リーダーグループ ぼんた 調布市健全育成推進染地地区委員会 リーダーグループ グループてんとう虫
	曙町 三世代のふれあい 新春ファミリーフェスティバル	立川市	立川市青少年健全育成曙町地区委員会

※令和 2 年度についてはコロナ禍により事例集未作成

地区委員会等推進モデル事業について

東京都は、地域社会・家庭・学校が連携し、青少年の健全育成を地域ぐるみで支援する優れた取組を「青少年健全育成地区委員会等推進モデル」として広く紹介しています。

●推進モデルの指定対象となる取組

推進モデルとは、以下の（1）から（3）までを満たしている活動です。

- （1）令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日）中に実施された事業であること
- （2）地域社会（地区委員会、NPO団体、町会、商店会等）、学校、関係機関等と連携を図って取り組んでいること
- （3）「青少年の規範意識やコミュニケーション力を育むと共に、他者を思いやり、多文化への理解を深めるなど多様性の意識を育むために実施する取組」で、以下のアまたはイに該当するものであること
 - ア 地域の中で青少年を育てる取組
 - イ 青少年の体験を豊かにする取組

●推進モデルに指定された場合

- ◇東京都が作成する「青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例集」に、取組事例を掲載します。また、東京都のホームページにも事例集を掲載することにより、取組事例を広く紹介します。
- ◇毎年開催される地区委員の研修会で、取組事例を紹介させていただきます。

●令和8年度の「青少年健全育成地区委員会等推進モデル事業」の募集について

令和7年度に実施された都内地区委員会での取組について、区市町村を通して令和8年3月に募集する予定です。

皆さまからの、工夫に富んだ様々な取組事例をお待ちしています。

【スケジュール（予定）】

- | | |
|-------------------|-------------|
| ・募集 | （令和8年3月～5月） |
| ・ヒアリング | （令和8年6月） |
| ・モデル指定・モデル事例集原稿依頼 | （令和8年7月） |
| ・モデル事例発表 | （令和9年2月） |

参考リンク集

地域における青少年の健全育成事業



若年支援



東京子供支援協議会



令和7年度 青少年健全育成地区委員会等 推進モデル事例集

令和8年1月発行

登録番号 (7) 26

編集・発行 東京都都民安全総合対策本部
総合推進部若年支援事業課
〒163-8001
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 03-5388-3098

印刷 株式会社モモデザイン
〒167-0035
東京都杉並区今川三丁目20番10号
電話番号 03-5303-2790



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。